

実施報告書

松江市立意東小学校 心に残る文化財子ども塾

1. 活動の概要

6月22日（木）、松江市立意東小学校6年生33人を対象に「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。学校のある松江市東出雲町の奈良時代の様子について、『出雲国風土記』に書かれていることから学習しました。また、意東の地名の由来についても学びました。

また、学校周辺の遺跡から出土した土器などについて、実物を見ながら説明を受けました。また、食事のときに使われた須恵器の皿をよく見てみると、同じ須恵器でも時期によって高台の有無があることを確認し、古墳時代はから奈良時代の食事方法の変化が遺物から分かることなどを学習しました。

2時間目は、奈良の大仏が作られることになった背景について学んだ後、いよいよ大仏パネルの作成に取り掛かりました。大仏パネルは1辺1m四方のシートが188枚もあって大変でしたが、みんなで協力し合って立派な大仏さまが完成しました。このような、普段の学校の授業ではなかなかできない体験活動を通して、改めて郷土の歴史や文化、文化財に興味を持ってもらえると嬉しいです。

2. 活動の様子

①奈良時代の日本と意東、小学校周辺の遺跡について。



「集中して聞いています」



「食器にも、時代ごとの流行りがありました」



「本物に興味津々」



「発言も積極的でした」

②大仏パネル作成



「188枚のパネルも皆の力を合わせれば…」



「あっという間に完成！！」

3. 子ども塾を終えて

①子どもたちから…

- ・意東の名前の由来が、意宇の東ということからきたことを知られた
- ・他にもいろんな地名の由来が知りたい。
- ・大仏パネルはとても大きかったけど、皆で協力して作れた。実際に作ってみると、とても大きかったことが心にのこりました。奈良で本物をみてみたい。
- ・昔の人が使っていた土器に触れて、形や手触りを感じることができてよかった。

②担任の先生から…

- ・大仏パネルの作業を通して、その大きさを実感することができた。
- ・いろいろな話を聞くことで、歴史や文化への興味を高めることができた。

松江市立意東小学校6年生のみなさん、先生方、ありがとうございました！！